

# クリンテートFXUVの効果確認試験

JAみついし

新ひだか町農業実験センター



右:試験ハウス



4月28日撮影 マトリカリア



9月3日撮影 デルフィニウム



マトリカリア



デルフィニウム

## 試験目的

クリンテートFXUVの効果確認試験

## 試験作物 及び品種

マトリカリア(シングルベグモ、アメロ)  
デルフィニウム(スーパーシフォンブルー、マリンプルー)

## 試験資材 及び数量(規格)

クリンテートFXUV(0.1mm×960cm×45m)

## 慣行資材

クリンテートFX、カゲナシ  
コーティング5+1

## 栽培方法

1作目 マトリカリア	2作目 デルフィニウム
2/18定植	8/7定植
5/24~6/13採花	10/13~11/8採花

## 資材使用期間

3月17日~11月8日

## 試験区面積

324㎡

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品と変わらない。透明度は通常フィルムと変わらないのでフィルムに印字されている商品名を見ないとUVカットフィルムかどうか区別がつかない。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

害虫の発生を抑えることができた。デルフィニウムの薄い青色の発色に影響は無かった。その他、生育等についてもUVによる影響は発生していない。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 害虫の発生を抑え、製品率を上げることが出来る。

【問題点】: 約7%のコストアップになる。発色に影響することや徒長ぎみに成長することがある。今回の試験や過去のお産地試験(スターチス、カーネーション)においては、発色や茎の硬さ等に影響することは無かった。

### (4)促成・抑制効果について

UVを使用したことによる促成・抑制効果は感じなかった。何か違いがあれば毎日、作業をしているパートの方が気づくはずなので違いは発生していないと考えられる。

### (5)雑草・病害虫の発生について

病害虫の発生は見られなかった。品種や気象条件により発生頻度が異なる。特に夏場が虫が発生しやすいのでUVカットフィルムによって被害が抑えらると品質や収量増が期待できる。

### モニター感想(新ひだか町 農業実験センター 城地センター長、岡田主幹)

・1作目のマトリカリアにおいては、害虫、特にアザミウマ類の被害が問題になるが、本試験では発生が

少なく被害は無かった。また花の発色にも影響は無かった。

・2作目のデルフィニウムでは、病害、特にうどんこ病の被害が問題になるが、本試験では発生が無かった。

・以上のことから、クリンテートFXUVは、デルフィニウムのブルー系品種でも花の発色に影響がないものと思われる。

・デルフィニウムのブルー系品種でUVカットフィルムが花色への影響するか検証する試験は、農ビのUVカット品で試験をして以来、しばらくしていなかった。今回の試験で問題ないことが確認できたので、ソネットやダリア、スターチスといった多品種とローテーション栽培をする場面においてもUVカットフィルムが使えるので品質や収量増につながる可能性がある。

・次年度以降も継続して検証していきたい。

### JA担当者の感想(購買課 三浦課長)

UVカットフィルムを使用することで害虫被害を抑制できると聞いていたが、花の発色に影響を及ぼす可能性があるため普及していない状況にあった。

特にデルフィニウムのブルー系では発色に影響が出た場合、商品価値が下がってしまうので今回の試験で影響がないことが確認でき、生産者に推進しやすくなった。

資材コストや輸送コストの増加により花卉生産者の負担が増えている中で、品質や収量増につながる可能性のあるクリンテートFXUVを推進していきたい。

### 今後の使用について

継続して使用したい。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 クリンテート

4 機能性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他